

2023年 6月 8日

八代市長 中 村 博 生 殿

一般社団法人 日本建築学会九州支部
支部長 趙 世 晨



八代市厚生会館の保存活用に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて貴市の八代市厚生会館は DOCOMOMO Japan に選定され（2021年）、我が国を代表するモダンムーブメント建築としての評価を得ているところではありますが、この4月、維持管理費の増大、採算性、駐車場不足を理由に、また大規模な文化コンベンションセンターの建設を代替策として、市長が閉館ならびにその後の解体を表明しました。一方で市民による「八代市厚生会館のホール再開を求める会」が閉館方針に対する抗議文、次いで公開質問状を市に提出しました。八代市厚生会館をめぐる一連の過程はマスメディアなどを通じて広く報道されており、熊本県内に留まらず、広く注目されているところです。

ご承知の通り、八代市厚生会館は1962（昭和37）年、当時貴市が掲げた「田園工業文化都市」に基づき、港湾整備と両輪を成す重要政策として建設されました。八代港へ通じる幹線道路に面し八代城北ノ丸跡に建設された八代市厚生会館は、1963（昭和38）年に貴市が指定されることになる「新産業都市」としての象徴であり、当時の坂田道男市長がヨーロッパ留学中に味わった芸術的感銘を八代市民とともに共有したいという理念が市民にまで浸透した「文化の殿堂」として価値ある存在です。

設計は1959（昭和34）年当時、坂田道太厚生大臣を通じて、その年、日本建築学会賞を受賞することとなる芦原義信に依頼されました。芦原はのち国内外から多数の受賞、受勲を受ける世界的に著名な建築家となりますが、特にその設計思想、設計手法である「外部空間」論は世界的に、今日に至るまで大きな影響を与えています。八代市厚生会館はその「外部空間」論の出発点であることが学術的にも明らかにされています。同時に旧八代城本丸の石垣、北ノ丸外堀、市民コミュニティなどを重視した設計から、地域を尊重する真摯な設計姿勢を受け取れます。さらに堅実な発想の構造、良質の材料による建設と、近年の耐震補強工事（2009年）とにより、熊本地震（2016年）でも特段の被害を受けませんでした。

貴下におかれましては、八代市厚生会館がもつ高い文化的、歴史的、学術的、ならびに地域にとっての意義、価値についてあらためてご理解いただき、この建物と、そこでの独自の体験が後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、日本建築学会九州支部としましては、この建物の保存活用に関して、学術的観点からのご相談をお受けいたします。